

日本英語教育史学会 会報

283

2017 年 9 月 29 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
e-mail: membership@hiset.jp会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第264回研究例会報告

2017 (平成 29) 年 9 月 9 日 (土), 県立広島大学のサテライトキャンパスひろしま (広島市中区) において第 264 回研究例会が開催されました。参加者は 15 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 松岡翼氏 (和歌山大学大学院生) が「1980 年代の臨時教育審議会における英語教育政策の立案過程」というタイトルでお話しされました。続いて河村和也氏 (県立広島大学) ・馬本勉氏 (県立広島大学) による「広島発「ラジオ英語講座」の歴史 (1)」の発表が行われました。司会は川嶋正士氏 (日本大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は松岡氏, ②は河村氏及び馬本氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①「小学校英語教育」をめぐる政策立案のプロセスがご発表を拝聴してよく理解できました。「国際化」, 「教育再生」, 「教育振興」, 「グローバル化」などのキャッチフレーズで国の根幹となる言語教育政策が決まるのは少し「知性」に欠けるなという印象を持ちました。また, 戦前にも「臨時」という名が冠された組織があったように記憶しますが, 国の基本となる言語政策は「臨時」の審議会などではなく, 本格的な, 永続性のある組織で審議・検討すべきで, 国民に対して失礼だという思いにかられました。日本の言語政策に関する研究は蓄積が乏しく, 松岡氏にはこれから大いに頑張っていただきたいものです。 (もみじまんじゅう)

◆①江利川先生のもとでしっかりと研究を進められている様子うかがえました。専門家不在の中で政財界などからの要望で小学校英語が独り歩きしていく様子が垣間見えました。今後も様々な資料にあたっていくこととなるでしょうが, 複合的な情報をうまく整理されると

よいですね。多くの先生方から質問を受けられていましたが, 一つ一つに的確に答えているさまは頼もしく感じました。この研究発表が修士論文に還元されることを祈念いたします。

(insulae flumen)

◆①1980 年代は, 英語教育の波が文法重視からコミュニケーション重視へと変化した時代でした。私はちょうどその頃から児童英語教育 (小学生) に関わっており, この時期から「児童英語教育反対」論が増えてきたように感じています。

教育政策の立案過程もこのような英語教育の時代背景や推移もあわせて説明いただくとわかりやすいのではと思いました。英語の専門家の定義って何でしょうね。興味深いご発表をありがとうございました。 (Rainbow)

◆①小学校英語教育をめぐる政策論議の話に興味深くうかがいました。英語教育の「専門家」が不在の中で行われた審議を疑問視されましたが, 求められる「専門性」が明らかにな

れば、専門家の必要性について説得力ある議論ができるのでは、と思いました。続編を期待しています。(Horse)

◆②広島発の「ラジオ英語講座」がこんなに早い時期にあったこと自体が驚きでした！入手できた放送テキストをコピーして別綴で配布していただき感激、「お宝」として大切に保管し、これからじっくり内容を味わってみます。今回のお二人の研究発表は「県民栄誉賞」に値する業績と考えます。(もみじまんじゅう)

◆②貴重な資料を発見されてから短い時間で substantial な調査をされたことに感服いたしました。フロアからもご指摘があったように、広島の NHK など、メディアに公報するとよいと思いました。戦後の英語ブームとマスメディアの関係がわかり、興味がわきました。今後、

継続的にご発表いただけることを楽しみにしています。未発見の第 1 巻が発見されることを期待しています。(insulae flumen)

◆②一つのテーマにお二人の先生方の違った研究のアプローチがうまく融合？されたご発表だったと思います。櫻井役といえば「英語教育史稿」で有名ですが、教師としての櫻井を感じる事ができとても感動でした。テキストのリーダビリティや文法配列の分析もとても興味深く、文法、コミュニケーションの両方を備えている古くて新しい教材であったと思います。そして、まだ入手できていない PRIMARY COURSE I の内容分析もさすがだと思いました。櫻井役の英語教育観がどのようなものであったか、「英語教育史稿」を再読してみます。ありがとうございました。(Rainbow)

<発表を終えて>

松岡 翼 (和歌山大学大学院生)

今回の例会では、「1980 年代の臨時教育審議会における英語教育政策の立案過程」について、小学校英語教育をめぐる政策立案を中心に発表させて頂きました。昨今の小学校英語教育に関する政策が立案される中、私自身が戦後以降の小学校英語教育に関する政策立案過程の実態を明らかにしたいと感じ、調査・資料分析を始めました。発表においては、主に国立公文書館に所蔵されている「臨時教育審議会に関する議事録」を基に、私自身の考察を加えながら論じました。発表を通じて、会場の皆様とともに「政策立案を行う上での英語教育の専門家とは何か」といった内容や「今後の小学校英語教育の方向性」について議論をすることができ、私にとっても有意義な示唆を得ることが出来ました。有益なコメントをしてくださった先生方に心よりお礼申し上げます。また、私自身今回が日本英語教育史学会で初めての発表でした。緊張もしていましたので、大変お聞き苦しい点多かったと思いますが、今後さらに精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



<発表を終えて>

河村 和也 (県立広島大学)・馬本 勉 (県立広島大学)

ラジオ放送草創期の英語講座と言えば、岡倉由三郎の名前が浮かぶ。岡倉の放送は 1925 年に始まったが、それはあくまでも東京放送局発のものであり、大阪であれ名古屋であれ、他の地方局にはそれぞれの英語講座が存在した。広島の場合は櫻井役が講師を務めた英語講座初等科 (1928 年) であった。テキスト (第 2 巻, 第 3 巻) の文法や



リーダビリティの分析から、その難易度や題材は初学者向けのものとして適切なものと考えられる。その分析内容に基づき、未見の第 1 巻について内容の一部を推測したが、フロアからの指摘を受け、さらに分析を進めてみたい。

講師の櫻井役は、英語教育史の研究者として著名であり、英語教育以外の制度史を中心とした業績も多い。しかし、氏も一教師として英語の指導に力を注いだ一人であったことは、広島高等師範学校附属中学校で教壇に立っていた頃の生徒の回想や、文部省督学官に転じる以前に執筆した数々の教材から推し量ることができる。それらを詳細に分析することにより、広島発「ラジオ英語講座」の実態をより明らかにしていきたい。

>> 事務局より

>> 事務局の地番変更について

このほど重複地番の解消作業にともない、事務局を置いている県立広島大学庄原キャンパスの地番が以下の通り変更されました。学会封筒等への記載については在庫がなくなり次第対応します。

(変更前) 広島県庄原市七塚町 562 番地

(変更後) 広島県庄原市七塚町 5562 番地

>> 『日本英語教育史研究』第 33 号投稿締切迫る

研究紀要『日本英語教育史研究』第 33 号への投稿締切が近付いてまいりました。10 月 31 日 (火) の消印もしくは受付印のある分までを受け付けますので、投稿をご予定の方はご注意ください。

送付先：〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学 馬本 勉

>> 論文投稿の前にご確認を

学会誌『日本英語教育史研究』に論文の投稿を予定されているみなさまにお願いいたします。すでに「投稿規程」および「投稿論文標準書式」に基づいて原稿を準備されていることと思いますが、特に以下の点にご留意ください。

なお、投稿規程・標準書式は、この 5 月に刊行した『日本英語教育史研究』第 32 号をご参照ください。次のリンクより閲覧も可能です。

http://hiset.jp/toko_kitei.pdf

◎完成ページで 20 ページ以内が原則です

すでにお知らせの通り、「標準書式」では文字の大きさ・1 ページの行数・1 行の文字数・使用フォント・句読点の打ち方なども詳しく定めてあります。今一度ご確認ください。

なお、最初のページは、(1)論文題目、(2)論文題目の英訳または和訳、(3)執筆者名とそのローマ字表記〔例 ERIKAWA, Haruo〕、(4)日本語または英語のキーワード 3 語、(5)100~150 語の英文アブストラクト、(6)本文の順となりますので、漏れのないようご注意ください。

◎コピーと受領確認用の葉書をお忘れなく

著者名が必要なのは正本 1 部のみです。副本には著者名が入らぬよう、プリントアウトもしくは

コピーの際にご配慮ください。

また、提出原稿にはページを付していただきます。手書きでもかまいませんので、お忘れなくお願いいたします。

◎インターネット上での公開が前提となります

現在、J-STAGE で公開されているのは第 23 号までに掲載された論考ですが、今後その範囲は拡大される可能性があります。インターネット上で論文が公開されることについては、投稿の段階でご承諾いただいていることとなりますので、くれぐれもご注意ください。

≫ 新入会員

- ◆ 久保野 りえ (くぼの りえ) 東京都 拓殖大学大学院生 (筑波大学附属中学校・高等学校)
- ◆ 藤村 達也 (ふじむら たつや) 大阪府 京都大学大学院生
- ◆ 島田 将夫 (しまだ まさお) 東京都 東京有明医療大学

≫ 英語教育史フォルダ

- ◆ 山田豪『英語学習第三の道』文芸社、本体 1,400 円、2017 年 10 月刊行予定
- ◆ 江利川春雄監修・解題『英語教育史重要文献集成』第 1 期全 5 巻、ゆまに書房、本体 75,000 円、2017 年 9 月末刊行予定

今日的な示唆に富み、入手困難な文献を精選して復刻。第 1 巻は小学校英語 (小学校用文部省英語読本全 3 巻と教師用指導書)、第 2 巻は英語教授法 1 (マーセル著・吉田直太郎訳『外国語研究法』1887)、第 3 巻は英語教授法 2 (柰田與惣之助著『英語教授法集成』1928)、第 4 巻は英語教授法 3 (広島高等師範学校附属中学校英語科『教授要目と教授の実際』(1932) など戦前の英語教授法研究の到達点を示す 7 点の文献)、第 5 巻は英語教育史研究 (花園兼定著「明治英学史」1~21 (1943~45)、『長崎における英語教育百年史』(1959) など英学史・英語教育史研究に関わる重要文献 6 点)。

<http://www.yumani.co.jp/np/isbn/9784843352915>

≫ この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 265 回研究例会 2017 年 11 月 18 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 266 回研究例会 2018 年 1 月 20 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 267 回研究例会 2018 年 3 月 17 日 (土) 京都で開催予定

*今後も日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (3 月発表希望であれば 12 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

)) 来年の全国大会は広島で

来年度の全国大会は第 34 回目となります。広島市内での開催を決めましたのでお知らせいたします。

日本英語教育史学会 第 34 回全国大会 (広島大会)

期日：2018 年 5 月 19 日 (土)・20 日 (日)

会場：サテライトキャンパスひろしま (広島県民文化センター) [広島市中区大手町 1-5-3]

全国大会については研究発表の資格を本会の「会員」としており、入会后 1 年を経過しない方もご発表いただけます。申し込みの受付は来年 2 月頃を予定しております。まだまだ先ですが、今からどうぞご予約ください。なお、ここ数年、広島市内は宿の取りづらい状況が続いております。ご参加をご予定の方はどうぞお含みおきください。

日本英語教育史学会 第 265 回 研究例会

日 時：2017 年 11 月 18 日 (土) 14:00~17:00

場 所：真宗教化センター しんらん交流館

(京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199)

研究発表① 戦前における英語音声学習の大衆化：カナ表記を中心に

上野 舞斗 (和歌山大学大学院生)

【概要】英語音声をカタカナで表記することはしばしば批判的となるが、戦前には岡倉由三郎や市河三喜といった学者たちがカナ表記を英語音声学習の大衆化の手段として肯定的に捉えていた。では、彼らはなぜカナ表記を支持したのだろうか。また、実際の表記法にはどのようなものが用いられていたのだろうか。本発表では、戦後急速に大衆化した外国語教育に活かせることがないかという問題意識の下に、戦前におけるカナ表記に関する言説や、独案内、講義録、雑誌における音声指導法・表記法について明らかにしたい。

研究発表② 第五高等学校入学試験英語問題の解析

田中 正道 (広島大学名誉教授)

【概要】戦時下の旧制高等学校入学試験英語問題を校種ごとに比較すると平時にはあまり伺えないそれぞれの学校の特徴が浮き彫りになり興味深い。本発表ではナンバー・スクールの一つ、第五高等学校入学試験英語問題に焦点を当て出題形式ならびに出題内容等の特徴を明らかにしたい。今日の大衆化された大学の入学試験を改めて見直す機会にもなろう。

参加費：無料

問合せ：日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

◆例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。

◆行楽シーズンですので、宿泊をご予定の方は、お早めに各自でご手配ください。

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

【会場案内】 (東本願寺 website: <http://www.higashihonganji.or.jp/about/access/pdfs/map.pdf> より)



【交通案内】

- ・ JR 京都駅中央改札口より徒歩 12 分
- ・ 市営地下鉄烏丸線・五条駅 8 番出口より徒歩 3 分
- ・ 烏丸六条バス停より徒歩 1 分

EDITOR'S BOX 昨年の EDITOR'S BOX でも話題に取り上げましたが、広島カープが今年もリーグ優勝し、見事連覇を達成しました。他のカープファンには失礼な発言と受け取られるかもしれませんが、昨年の優勝は個人的には「勢い」で達成したようにも感じられる部分がありました。が、今年には実力があることを十分に示しての優勝であったように思います。(若)